

先月の日本薬学会 第 129 年会 にて発表

エスエス製薬株式会社（東京都中央区 代表取締役社長：羽鳥 成一郎）は、ジフェンヒドラミン塩酸塩の睡眠構築と、翌日の QOL（Quality of Life：生活の質）に及ぼす影響について、先月の日本薬学会・第 129 年会（平成 21 年 3 月 28 日、京都）にて発表いたしました。

平成 21 年 4 月 6 日

エスエス製薬株式会社

● 研究の背景

ジフェンヒドラミン塩酸塩は、一時的な不眠の改善にも利用されていますが、睡眠に及ぼす影響については、客観的な指標を用いて解析した研究は少なく、必ずしも一般化できる結果は得られていませんでした。そこで、エスエス製薬では客観的な指標として睡眠ポリグラフィを用いてジフェンヒドラミン塩酸塩の睡眠構築及び翌日の QOL に及ぼす影響を科学的に検証しました。

● 研究結果要旨

ジフェンヒドラミン塩酸塩は徐波睡眠（Stage3+4）及びREM睡眠の出現量を抑制せず、Stage2 を有意に増加させることがわかり、実睡眠時間（就寝時間－覚醒時間）及び睡眠効率（実睡眠時間／観察時間×100）を有意に改善することが示唆されました。

また、ジフェンヒドラミン塩酸塩の効果には個体差がありますが、本研究においてその原因を検討しました。その結果、今回は明確な相関関係の特定に至らなかったものの、代謝酵素である CYP2D6 の代謝能が低下するに従い、Stage2 が増加する傾向を確認しました。

エスエス製薬は睡眠改善のパイオニアとして、これからも研究を続け、人びとの健康に役立つ情報を提供してまいります。

● 当日の感想

多くの医療関係者、そして、マスコミ関係者に直接説明させて頂く機会を得ることができました。頂戴した貴重なご意見は、今後の基礎研究だけでなく、製品開発にも参考とさせていただきます。

● 松澤 邦明 試験責任医師（松澤呼吸器クリニック）からのコメント

生活の 24 時間化が進み、人のライフスタイルも変わり、不眠症までは至らない一過性の不眠に悩む患者さんも増えてきています。本邦においても諸外国においてもジフェンヒドラミン塩酸塩は一過性の不眠に用いる市販薬として使われているようですが、その薬効プロファイルを客観的に見る機会はほとんどあ

りませんでした。今回、睡眠ポリグラフィ等を用いてそれらをプラセボ対照で確認出来たことは、ジフェンヒドラミン塩酸塩の睡眠に対する有効性並びに安全性評価の一助となると考えており、大変有意義な研究であったと考えます。

● 不眠とは

不眠症とは「不眠の訴えが少なくとも週3日以上あり、しかも1か月以上持続するもの」と定義されています。病気としての不眠症は医師の診察を受けることが勧められますが、実際には病院に行くほどでもなく、ストレス・不安・環境の変化・不規則な生活などで、一時的な不眠を訴える方が多いのも事実です。

● 日中のQOLと不眠

不眠に悩む方は、体の健康を維持するために必要な夜間の睡眠が量的または質的に不足することにより、イライラしたり、疲労がたまったり、集中力が低下したりすることで、昼間の生活に支障をきたします。



参考：医学と薬学.2008 Sep;60(3)、445-458